

道南太平洋海域スケトウダラニュース

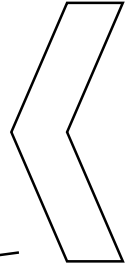
平成17年度 第4号

2005年12月1日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

Fax: 0143-22-7605



道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成17年11月24日～11月28日
- ・調査海域：道南太平洋の水深200～500m太平洋海域

- ・魚探反応の強い海域は、
 - 胆振海域：海区182、184、185海区
 - 渡島海域：海区192
 - 日高海域：水深300～350mの等深線沿い
- ・分布水深は350～400m中心（まだ深い）
- ・反応の強さは10月より増加 漁獲の増加はこれから

1. スケトウダラと考えられる魚探反応は苫小牧沖を除く胆振海域全域で強く、特に海区182、184、185で最も強い結果でした。
渡島海域は胆振海域と比較して反応が弱く、その中では沖合いの192海区で比較的強い反応が観察されました。また、水深200m台（C線：海区193）にも弱いながら魚群の分布がみられました。魚群の一部が浅い方に入りはじめたと考えられます。
日高海域では水深300～350mの等深線沿いに比較的強い反応が見られました。
2. スケトウダラと考えられる魚群は、胆振、渡島海域では水深350～400mを中心に分布しており、いまだ沖合いの深いところにとどまっています。また、日中でも海底から離れている場合が多く観察されました。分布状況は平成15年度同期に似ていました。
3. 9、10月の調査と比較して、海域全体の反応の強さは増加しており、今年度も遅れて魚群が来遊してきたと考えられます。
4. 今後、漁獲量の増加が期待できますが、分布が沖合いで深く、海底から離れている場合が多いことから、本格的な増加は12月に入り、魚群の分布水深が浅くなってからと予想されます。
6. 次回調査は平成18年1月中旬の予定です。
7. スケトウダラニュースは、インターネットで函館水試のホームページ上からもご覧になれます。

ホームページアドレス

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/>

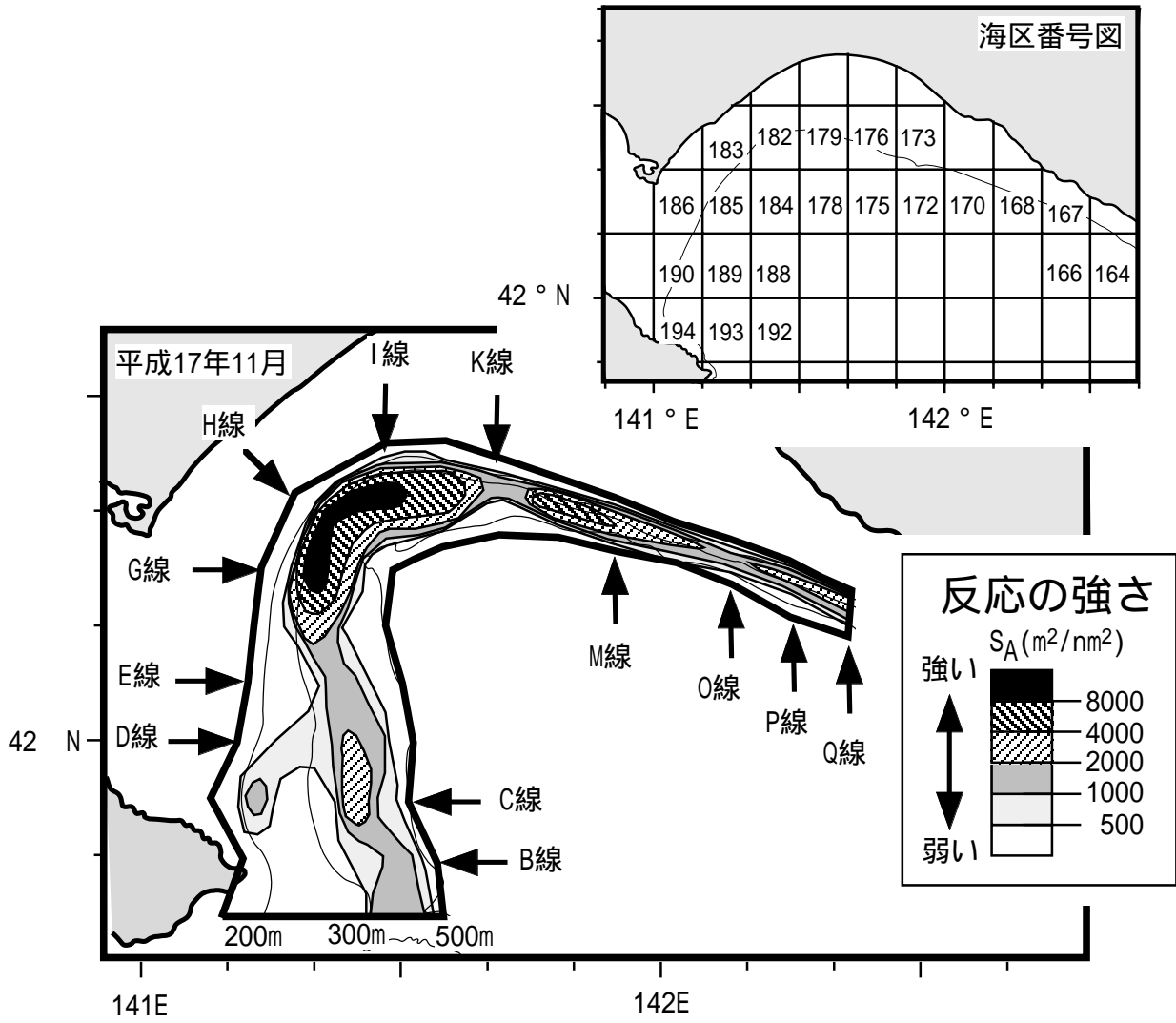


図1. 調査海域における魚群の分布
太黒線の中が調査範囲

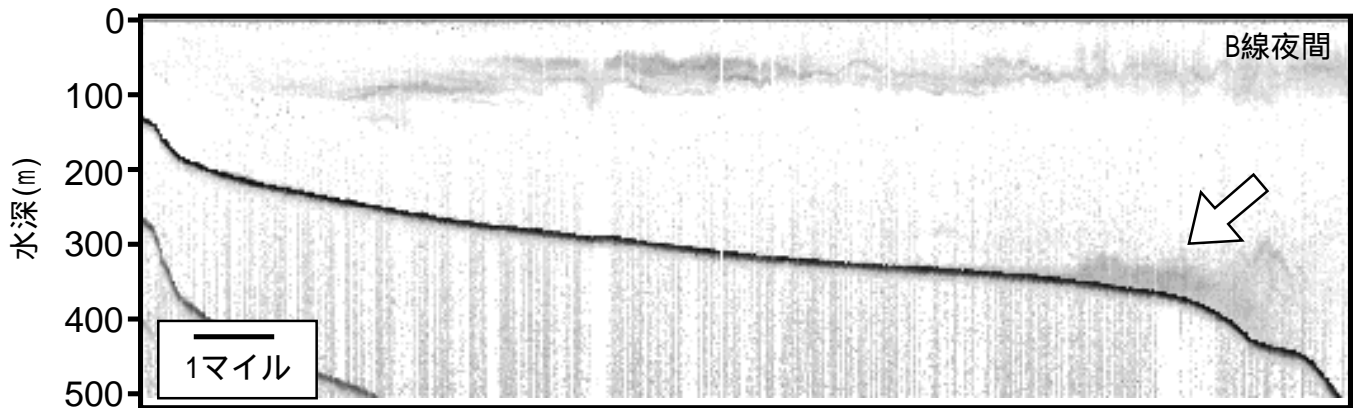


図2. 魚探画像
矢印：スケトウダラと考えられる魚群

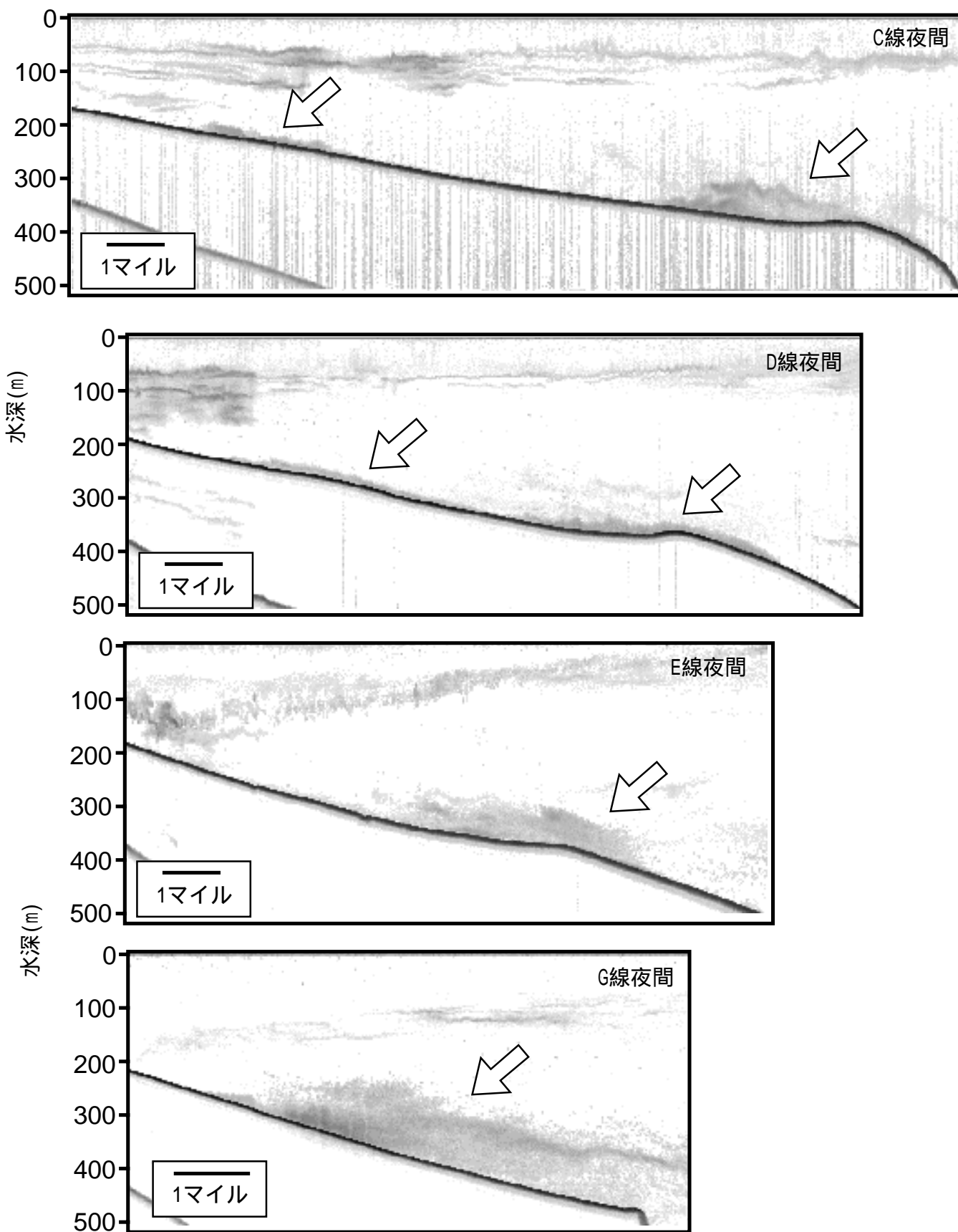


図2 . 魚探画像 つづき

矢印：スケトウダラと考えられる魚群

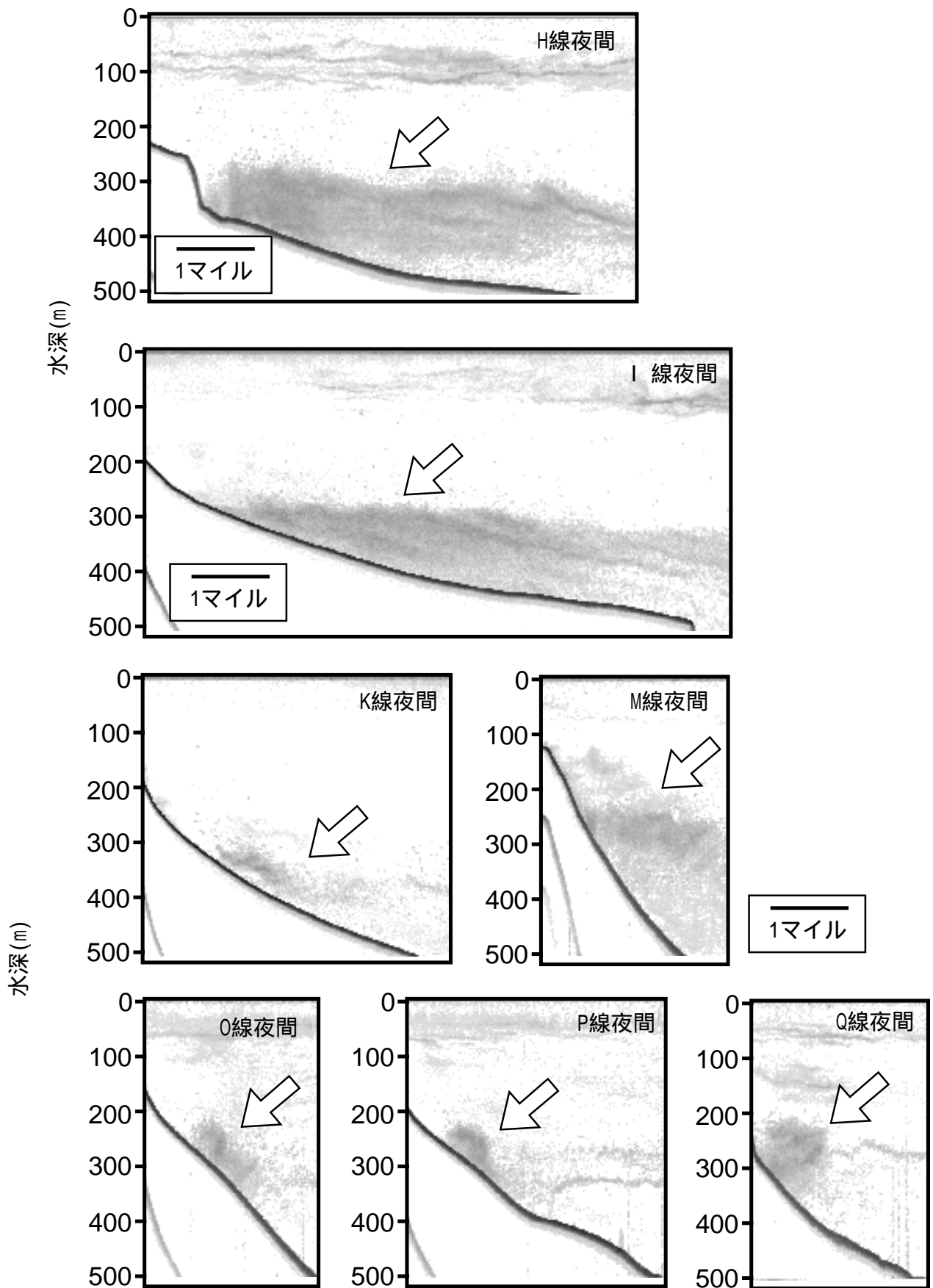


図2 . 魚探画像 つづき
 矢印：スケトウダラと考えられる魚群